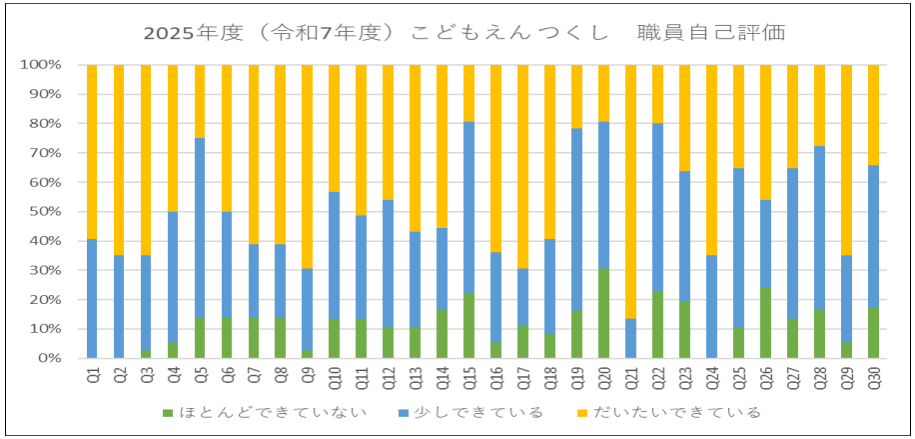
社会福祉法人つくし会　幼保連携型認定こども園　こどもえん つくし　　２０２５年度　自己評価

Ⅰ．本園の教育・保育目標

1．健康な子ども 3．豊かな感情と創造力をもつ子ども 5．人、もの、自分を大切にできる子ども	2．自分のことは自分でできる子ども 4．自分で考えて行動する子ども
0 歳児	生活欲求を満たし生活リズムをつかむ　　温かな雰囲気をつくり、五感を育む
1 歳児	いろいろな世界に興味をもち活発になる　　姿勢運動・みたて遊び・身振り活動
2 歳児	行動範囲が広がり探索活動がさかんになる　　象徴機能・みたてつもりを楽しむ
3 歳児	保育教諭や友だちとしっかり関わって遊ぶ中で自分の伝えたいことや思いを言葉や行動で表現できる
4 歳児	友だちとの繋がりを広げ、感情も豊かになる　　豊かな感性を育む
5 歳児	集団活動の中で意欲的に活動し知識や能力を獲得し達成感や充実感を味わう

Ⅱ．職員の自己評価

保育の理念・保育観	Q1	認定こども園の「保育の理念・保育観」について理解している	保健活動・安全管理	Q16	食中毒予防対策を理解し，衛生管理ができる
	Q2	認定こども園の社会的責任について理解している		Q17	体調不良児について個別的な配慮ができる
	Q3	自園の保育理念と目標を理解している		Q18	担当する子どもの健康状態や発達について把握し，異常に気付くことができる
保育・食育の内容	Q4	子どもの発達段階を理解し，適切な援助ができる		Q19	子どもの救急・救命処置ができる
	Q5	気になる子や障害を持つ子の特質を理解し，適切な発達援助ができる	保護者・地域社会・関係機関との連携	Q20	保護者との信頼関係があり，的確なアドバイスができる
	Q6	無理なく好き嫌いをなくす援助ができる		Q21	保護者の人権・プライバシー守秘義務について理解している
	Q7	発達をふまえた食事の内容や形態が理解できている		Q22	保護者や地域からの苦情に適切に対応することができる
	Q8	行事食の趣旨を理解し子どもに伝えることができる	地域の子育て支援	Q23	園の子育て支援事業の理解・説明ができる
保健活動・安全管理	Q9	子どもが日々を過ごすための安全な環境や適切な衛生状態をつくることができる		Q24	保育に関するニュースや情報を入手するようにしている
	Q10	子どもの感染症やその他の疾病についての知識を持ち，必要な援助ができる		Q25	行政や民間が行う福祉サービスに関心を持っている
	Q11	火災・地震・不審者侵入などの危機管理ができる	保育スタッフとしての資質向上	Q26	園で計画した園内研修に毎回参加している
	Q12	子どもの事故の予防と事故への対処ができる		Q27	職務遂行に積極的で担当以外の業務にも進んで取り組むことができる
	Q13	基本的なアレルギーの種類（食物・接触・薬）や特質について理解している		Q28	職務の中で，不都合なことの改善及び提案ができる
	Q14	子どもの食生活の実態（食物アレルギー含む）を把握し職員間や家庭との連携ができる		Q29	先輩や上司への報告・連絡・相談を怠らないようにしている
	Q15	子どもの虐待を早期発見し，問題解決のための手立てを講じることができる		Q30	後輩や同僚に適切な助言や的確なフォローができる



回答者：こどもえん つくし職員 37 名（女性 37 名，平均年齢 47.4 歳）

結　果

できた点・・・・・・「保護者の人権・プライバシー守秘義務について理解している」、「子どもが日々を過ごすための安全な環境や適切な衛生状態をつくることができる」、「体調不良児について個別的な配慮ができる」

できなかった点・・・「園で計画した園内研修に毎回参加している」、「子どもの虐待を早期発見し，問題解決のための手立てを講じることができる」、「保護者や地域からの苦情に適切に対応することができる」

Ⅲ．評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1．教育・保育目標と内容	全職員で教育・保育目標を周知し、各年齢チーム職員間で内容を共通理解のもと指導計画を作成し実践した。
2．職員の資質向上	職員の資質向上のため、さまざまな分野の研修に参加した（保育、給食、環境、事故予防、感染症対策、施設運営など）。研修の形態は現地参加、オンラインライブ、オンデマンド配信などさまざまだった。
3．保健・安全指導・特別支援教育	衛生管理：看護師が中心となり、感染症予防研修や嘔吐処理研修を園内で実施した。また、感染症が流行する時季にはおもちゃや保育室、設備の消毒を特にこまめに行った。 特別支援教育：在園児が利用・通園している専門機関や外部施設等と情報交換を行い、連携を深めた。また、それぞれの児について経過を追い、職員間で情報共有をした。
4．保護者との連携・情報	保護者との信頼関係の構築：家庭での様子、園での様子を保護者と担任が伝え合い、保育・教育に活かすよう努めた。 保護者連絡・園情報の発信：お便り、園内掲示板、緊急メール配信システムを利用し、保護者に対して情報の周知を速やかに行うことができた。
5．保幼小連携・地域交流	保幼小連携：引き続き保幼小連絡協議会に参画し、近隣の幼稚園・保育所・小学校と連携を行っている。 地域交流：さまざまな行事やイベントを通じて、近隣の園の子どもたちや地域の親子、障害者施設の方々との交流の機会を持つことができた。
6．運営管理	連絡会議：週に一度のクラス代表者会議を行い、各クラスの状況や行事の計画、事務連絡など情報共有を図った。 労務研修：社会保険労務士を招いて月に一度の研修を行い、人事・労務管理等に対応している。来年度も継続して実施する。

Ⅳ．今後取り組むべき課題

	課題	取り組み内容
職　　員	法人マニュアルの周知・順守	既卒者、派遣労働者など、さまざまな形態・処遇の職員が近年増加していることから、共通理解を図るため全職員に法人マニュアルを周知する。
	園内研修の充実	資質向上はもちろんのこと、職員同士が世代横断的な関わりを持ち担当クラスの垣根を超えて交流する機会となるような企画を行う。また、すべての職員が何らかの形で参加できるよう方法を考えたい。
教育・保育	環境の整備	子どもが遊びや学びに主体的に取り組める環境を整備する。
	在園時間の違いに対する配慮	1 号認定児、短時間利用児等が、在園時間や登園日数による不利益を被ることがないよう配慮する。

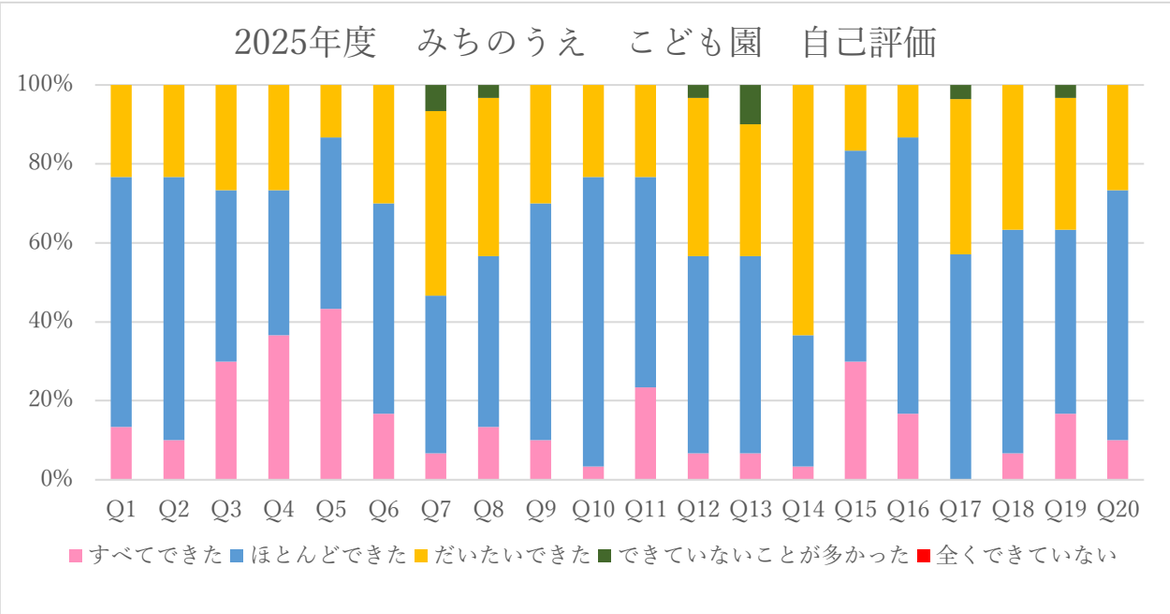
社会福祉法人つくし会　幼保連携型認定こども園　みちのうえ　こども園　2025 年度　自己評価

1．本園の教育・保育目標

1.健康な子ども 3.豊かな感情と創造力をもつ子ども 5.人、もの、自分を大切にできる子ども	2.自分のことは自分でできる子ども 4.自分で考えて行動する子ども
0 歳	生活欲求を満たし生活リズムをつかむ　温かな雰囲気をつくり、五感を育む
1 歳	色々な世界に興味をもち活発になる　姿勢運動・みたて遊び・身振り活動
2 歳	行動範囲が広がり探索活動がさかんになる　象徴機能・みたてつもりを楽しむ
3 歳	保育教諭や友だちとしっかり関わって遊ぶ中で自分の伝えたいことやあ思いを言葉や行動で表現できる
4 歳	友だちとの繋がりを広げ、感情を育む
5 歳	集団活動の中で意欲的に活動し知識や能力を獲得し達成感や充実感を味わう

2．職員の自己評価

職員自己評価項目 「1.全くできていない」～「5.すべてできた」の 5 段階にて評価	
Q1　あいさつ・電話・来客対応ができる	Q12　職務遂行に積極的で担当以外の業務にも進んで取り組むことができる
Q2　言葉づかいに気を付け、常に笑顔を心がける	Q13　職務の中で、不都合なことの改善及び提案ができる
Q3　仕事に適した身だしなみに注意している	Q14　自己研鑽を積むことができる
Q4　自己の健康管理ができる	Q15　職員間で連絡体制が確立されている
Q5　職種や園の信用を無くす行為、発言をしない	Q16　職員間で協調性や信頼感があり、チームでの職務に取り組んでいる。
Q6　上司の指示や定められた規則、手続きを守ることができる	Q17　後輩に適切な助言や明確なフォローができる
Q7　こども園における 2 つの保護者支援について理解している	Q18　他人の心情・立場を理解し、物事を判断し援助できる
Q8　こども園における保護者に対する支援の基本を理解している	Q19　園内研修に積極的に参加している
Q9　入園児の保護者との相互理解に努めている	Q20　不適切な保育について理解し、配慮している。
Q10　公平に人の話を聞いたり・話をしたり、正確に伝達できる	
Q11　自分の職務に積極的に取り組むことができる	



回答者：みちのうえ　こども園職員 30 名（女性 29 名男性 1 名　平均年齢 44.1 歳）

できた点・・・・・・・・「仕事に適した身だしなみに注意している」「自己の健康管理ができる」「職種や園の信用を無くす行為、発言をしない」「自分の職務に積極的に取り組むことができる」「職員間で連絡体制が確立されている」「職員間で協調性や信頼感があり、チームでの職務に取り組んでいる」「園内研修に積極的に参加している」

できなかった点・・・「こども園における2つの保護者支援について理解している」「こども園における保護者に対する支援の基本を理解している」「職務遂行に積極的で担当以外の業務にも進んで取り組むことができる」「後輩に適切な助言や明確なフォローができる」「園内研修に積極的に参加している」

3．評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み内容
1.保育教育・保育環境と内容	園児一人ひとりを受容し理解を深めて働きかけや援助し、自発的に活動できる環境の工夫を行う。
2.職員の資質向上	専門家としての能力の向上と自己研鑽の為、教育・保育実践、障がい児保育、救急対応、アレルギー対応、子育て支援、労務管理など様々な分野の研修に参加した。
3.衛生・安全指導・危機管理	衛生管理：食中毒や感染症に対する予防や対策についてマニュアルに基づいて適切に実施した。（年に3回） 安全管理：遊具点検・避難訓練は担当がそれぞれ月に一度行った。また事故（電車や災害）など身近にあった出来事を書面にし、研修を行った。 危機管理：毎月担当職員を中心に研修を行い、大きな事故やけがはなかった
4.保護者との連携・情報	保護者との信頼関係の構築：家庭での様子、園での様子を保護者と担任が伝え合い、保育・教育に活かすよう努めた。 保護者連絡・園情報の発信：日々のお便りや掲示に加え、重ねてお知らせが出来、かつ緊急の連絡（地震後の連絡、雨天による遠足の中止など）もスムーズにできた。 子育て支援：保護者が感じている不安や悩みに対して、日常のやり取りの中で丁寧に耳を傾け、共感的な姿勢を持って接することを心がけた。
5.幼保小連携・地域交流	小学校への接続：近隣小学校等と計画に取り込んでいる。 地域との交流：地域の福祉施設等が開催する行事に年長児が参加し、歌や和太鼓、踊りを通して交流を深めた。
6.運営管理	週に一度の代表者会議を設け、クラスの状況や行事の計画、保健衛生、最新の情勢等について情報共有をすることに努めた。

4．今後取り組むべき課題

	課題	取り組み内容
職員	感染症への対応	児童・職員の健康状態の把握 手洗い・換気の徹底・チェック項目に記入
	新しい法律に沿った職場環境の見直し	働きやすい職場づくりを念頭に置き、改善すべき点などに気づいた場合はその都度知らせる
教育・保育	在園時間の違いに対する配慮	1 号認定児、短時間利用児等が、1日の在園時間や登園日数が、2・3 号標準の児童に比べて少ないため、不利益を被ることが無いよう配慮する（保育・教育計画，行事計画等）
	カリキュラムマネジメントに重点を置く	「計画は子どもの実態に合わせて常に見直し改善する。」「記録を振り返り、実際に行うことができているか吟味する」という視点を持つ（PDCAサイクル）
	アクティブラーニングについての理解を深め、教育・保育に取り入れる	こどもの主体的・対話的で深い学びを促すための関わり方、環境構成、教材の用意などの工夫